

福井市地域包括ケアビジョン策定時から現計画までの成果（すまいるオアシスプラン成果指標の進捗管理）

・ビジョン・基本目標 1～3の成果指標

参考資料1 すまいるオアシスプラン 2024 R7 取組実績参照

※下線は目標未達成見込みのもの

ビジョン 基本目標	施策の方向性	成果指標	ビジョン 策定時	前計画 策定時	現計画 策定時	実績			目標 R8
			H28 実績	R1 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	
1 在宅医療の充実 と在宅医療・介 護連携の強化	1-1 適切な在宅医療・介護サービス の提供と多職種間の連携の推進	①入退院時に医療と介護の連携を行っている人数 (入院時情報連携加算・退院加算の算定人数)	1,879	3,292	2,910	3,102	3,236	3,142	3,500
	1-2 在宅療養等に関する普及啓発	②ニーズ調査で「在宅での療養に不安を感じる」 と答えた人の割合	45.8%	48.7%	55.4%	-	-	38.4%	45.0%
2 介護サービスの 提供体制の充実	2-1 介護サービスの整備及び 地域拠点化の推進	①地域密着型介護サービス等の整備数							
		・認知症対応型共同生活介護〔ユニット数〕	44	51	55	57	57	60	63
		・小規模多機能型居宅介護〔箇所数〕	-	-	31	30	28	28	30
		・看護小規模多機能型居宅介護〔箇所数〕	4	8	9	9	9	9	12
		・特定施設入居者生活介護〔床数〕	-	328	372	372	376	406	426
	2-2 介護人材の確保及び サービス内容の充実	②地域包括支援センターへの相談件数（実人数） (延べ件数)	7,399 23,452	8,145 27,792	7,106 31,520	7,659 29,349	9,078 29,404	8,930 29,350	8,800 35,200
		③介護職員の職場環境の向上に取り組んでいる事 業所の割合（介護職員処遇改善加算取得率）	78.5%	79.0%	81.9%	83.4%	89.1%	91.6%	85.0%
3 高齢者の住まい の確保	3-1 自宅で安心して生活ができる 環境の整備	①ニーズ調査で「既に高齢者に配慮した設備があ る」と答えた人の割合（トイレ洋式化を除く）	67.1%	71.2%	71.4%	-	-	74.4%	75.0%
	3-2 多様な住まいの提供	②高齢者人口に対する高齢者向け住宅の割合 (高齢者向け住宅の整備床数／高齢者人口)	1.9%	1.9%	2.0%	2.1%	2.2%	2.2%	2.2%

福井市地域包括ケアビジョン策定時から現計画までの成果（すまいるオアシスプラン成果指標の進捗管理）

・ビジョン・基本目標 4～6の成果指標

参考資料1 すまいるオアシスプラン 2024 R7 取組実績参照

※下線は目標未達成見込みのもの

ビジョン 基本目標	施策の方向性	成果指標	ビジョン 策定時	前計画 策定時	現計画 策定時	実績			目標 R8
			H28 実績	R1 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	
4 効果的な介護予 防の推進	4-1 社会参加の推進	①生きがい支援事業参加者数〔人〕	30,500	33,112	16,213	15,001	17,601	<u>17,818</u>	34,000
	4-2 介護予防の推進	②いきいき長寿よろず茶屋設置数〔箇所数〕	30	36	41	42	45	46	50
5 高齢者を支える 生活支援体制の 構築	5-1 日常的な家事等の支援体制の充実	①ささえあいの家で登録している介護サポーター数〔人〕	20	53	63	61	67	<u>78</u>	90
	5-2 地域の見守り体制の充実	②福井市あんしん見守りネットワーク協力事業者数〔事業者数〕	64	67	65	65	65	67	70
6 認知症の人を支 える体制の構築	6-1 若年性認知症を含む認知症への 理解を深める普及・啓発	①認知症サポーター数〔人〕 (認知症サポーターの養成人数：累計)	25,592	40,793	46,396	48,983	51,677	<u>54,599</u>	60,000
	6-2 認知症の人と介護者を支援する やさしい地域づくり	②チームオレンジの設置数〔チーム数〕	-	-	-	1	2	<u>3</u>	9
		(参考：前計画指標) 認知症の人にやさしいお店等の登録数	81	113	166	217	247	258	-
	6-3 早期診断・早期対応の推進と認知 症の発症予防・進行抑制	③あたまの元気度調査(一次チェック)実施者数 〔人／年〕	3,999 (H29)	6,276	5,091	5,125	4,740	7,397	7,000

次期「すまいるオアシスプラン 2027」策定方針

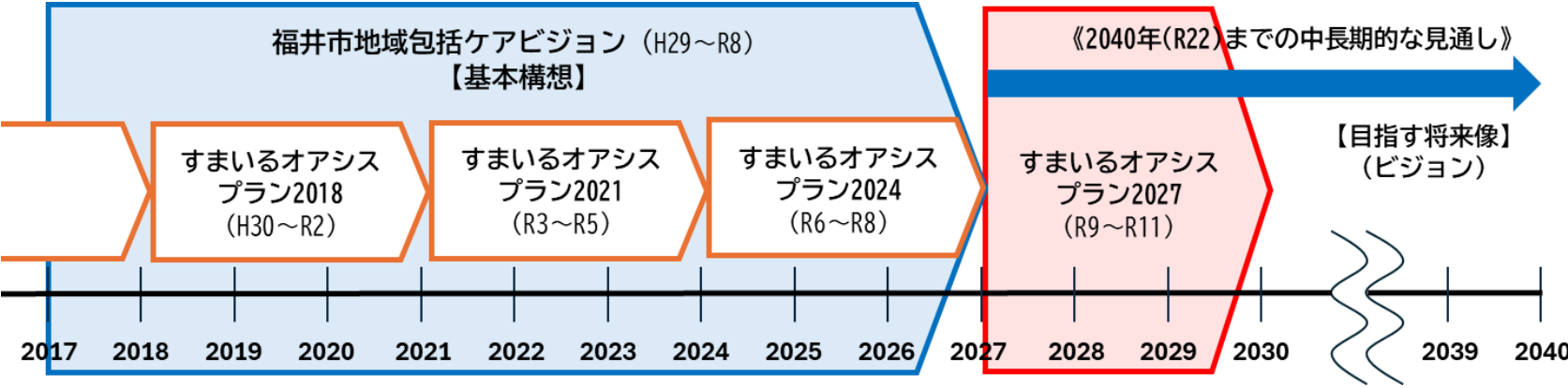
(1) 策定方針

- ・本市では 2025 年(R7)での地域包括ケアシステムの構築を目指し、高齢者施策の基本構想として「地域包括ケアビジョン(H28 策定・10 年間)」を策定。
- ・これまでの「すまいるオアシスプラン」は、地域包括ケアビジョンを上位計画とし、その実現に向けた3年間の実行計画として別途策定してきた。
- ・国は、介護・医療の複合ニーズを抱える 85 歳以上人口の増加が見込まれる 2040 年(R22)を見据え、地域包括ケアシステムを「構築」から「深化」へ転換する方向性を示している。
- ・また、市町村計画においても、中長期的な推計やサービス提供体制の確保に関する取組を記載することが求められている。
- ・このため、次期「すまいるオアシスプラン」は、これまで別々に策定してきた「将来ビジョン」と「実行計画」を一体的に整理し、2040 年を見据えた本市の将来像や施策の方向性を計画内に織り込むとともに、それを具体化する3年間の取組を示す計画として策定する。

(2) 計画の位置づけ・期間

- ・認知症基本法(R6 施行)の趣旨を踏まえ、認知症施策を総合的かつ計画的に推進するため、**新たに「認知症施策推進計画」を策定**
- ・認知症施策は、医療・介護・生活支援など、地域包括ケアを構成する各施策と密接に関係することから、計画の柱の一つとして位置づけ、各分野と連動させながら一体的に推進

計画名	法令根拠	計画の内容	期間
第 11 次 老人保健福祉計画	老人福祉法	老人福祉事業や、高齢者の健康の増進、疾病予防といった保健事業 など	3 年 (R9～R11)
第 10 期 介護保険事業計画	介護保険法	介護サービス見込み量や介護保険事業を円滑に実施するために必要な事項 など	
第 3 期 高齢者 居住安定確保計画	高齢者 住まい法	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる住まいの実現に必要な事項 など	
(新)認知症施策 推進計画	認知症 基本法	「新しい認知症観」の理解増進や、本人の声を起点とした施策等の必要な事項など	



次期「すまいるオアシスプラン 2027」策定方針

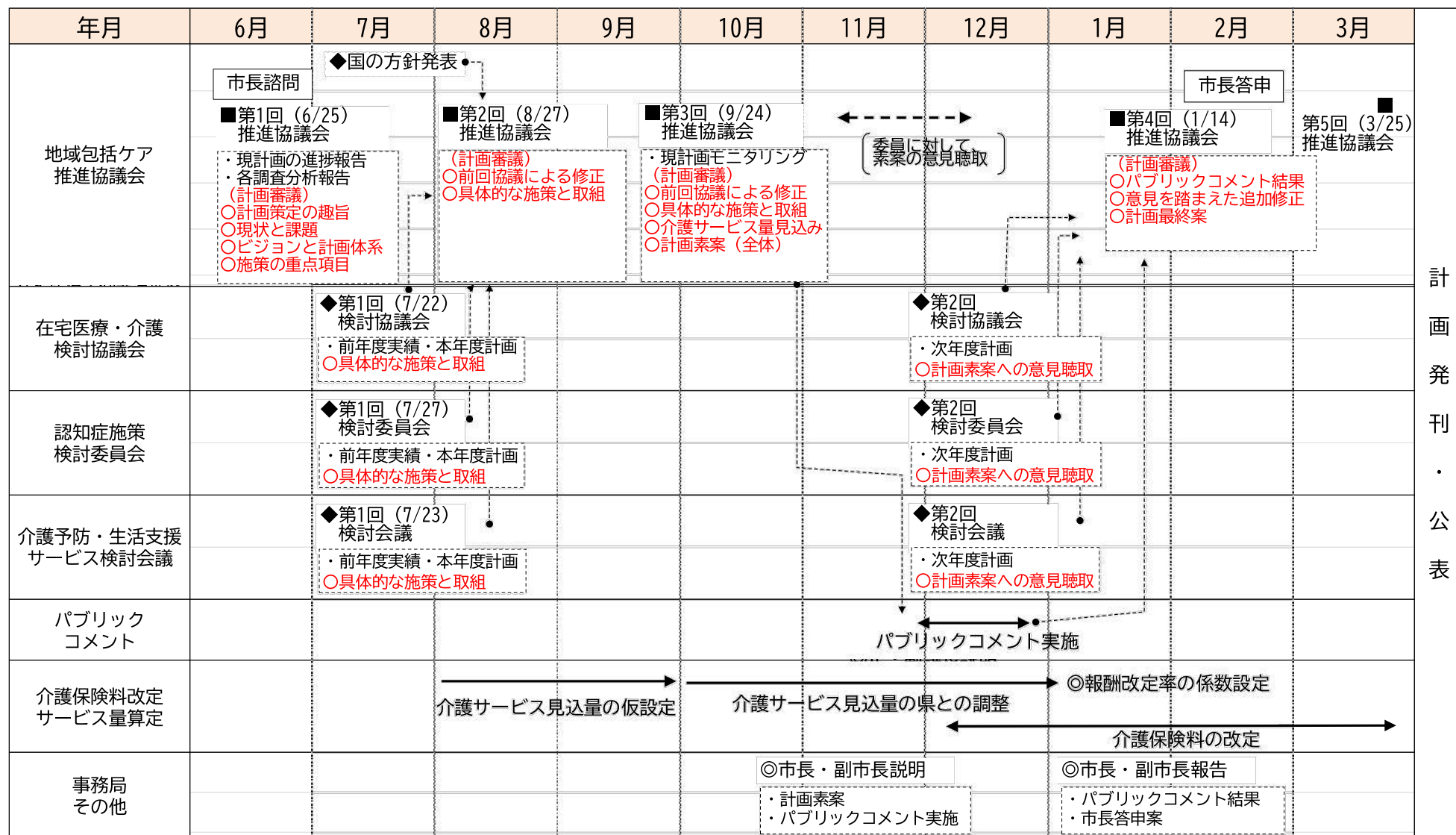
(3) 計画の構成 (案)

第1章 計画策定の趣旨	計画の目的、計画の位置づけ、計画期間、他の計画との関連
第2章 高齢者の現状と課題	高齢者をとりまく社会状況と見通し(推計)、本市の高齢者の現状と課題
第3章 計画の基本的な考え方	ビジョン 基本理念、2040年を見据えた将来ビジョン、施策の方向性
	実行計画 施策の体系、重点施策
第4章 具体的な施策の展開	実行計画 施策、具体的な取組
第5章 介護サービス量の見込み	介護サービス量の見込み、サービス事業所の整備目標、給付費等の見込み
第6章 計画の推進体制	計画の推進体制、成果指標一覧
第7章 資料編	計画策定の経過、地域包括ケア推進協議会委員名簿、関連法令

<参考> 現計画の構成

区分	すまいるオアシス プラン 2027	地域包括ケア ビジョン	すまいるオアシス プラン 2024
計画の趣旨 ・位置づけ ・期間等	○ (期間：3年間)	○ (期間：10年間)	○ (期間：3年間)
現状・課題認識 ・社会状況 ・現状と課題	○ (2040年までの見通し)	○ (中長期的)	○
基本理念	○ (中長期的)	○	○ (ビジョンと共有)
将来ビジョン (基本目標)	○ (2040年を見据えた 将来ビジョン)	基本目標：○ 目指す将来像：○	基本目標：○ (ビジョンと共有)
施策の方向性	○ (2040年を見据えた 施策の方向性)	○	○ (ビジョンと共有)
具体的な施策 重点施策	○ (3年間)	○	○
成果指標	○ (3年間)	×	○

計画策定スケジュール



本市の現状と課題（まとめ）

本市をとりまく社会環境変化やこれまでの取組成果、市民アンケートや関係者の意見を踏まえると、次のような課題が明らかとなっている。 資料2-4 第2章参照

課題① 医療・介護ニーズの複合化、在宅ケアの不安への対応

- ・ 85 歳以上の高齢者や認知症高齢者、単身高齢者の増加により、医療と介護の複合的なニーズが増加している
- ・ 在宅生活を望む人が多い一方で、在宅療養に不安を感じる割合も高く（特に家族負担や急変時対応等）、安心して暮らし続けられる支援体制が求められている

課題② 人材不足を前提としたサービス提供体制の維持

- ・ 介護人材の慢性的な不足が続いており、今後の増加が見込まれるサービス需要に対応する体制の維持が困難となることが懸念される
- ・ 事業所や関係者からも人材確保や生産性向上による職場環境改善の必要性が指摘されている

課題③ 社会参加・フレイル予防の促進

- ・ 就労や趣味、地域活動への参加ニーズがある一方で、社会参加が限定的な高齢者も多い
- ・ 関係者や事業所から、85 歳以上高齢者の急増を見据え、自立支援や重度化防止の取組を強化し、フレイル予防や改善を促す取組の必要性が指摘されている
- ・ 認知症のある人を含め、地域に居場所を持つことの重要性が指摘されており、参加できる機会や場の拡充が求められている

課題④ 地域の支え合いの希薄化

- ・ 地域のつながりの希薄化により、近隣で支え合う関係性が弱まっている。また、生活支援の担い手の高齢化・固定化が進んでおり、新たな担い手の確保が課題
- ・ 一方で、市民からは相談できる場や地域での支え合いの仕組みを求める声が多く寄せられている

課題⑤ 単身世帯・身寄りのない高齢者の複雑・困難ケースの対応

- ・ 未婚化や子供の県外転出による単身高齢者や身寄りのない高齢者の増加により、地域包括支援センターやケアマネジャーへの相談が複雑化・困難化している
- ・ 複雑化・困難化する課題に対応するため、分野横断的に多機関と連携した包括的な相談支援体制の構築が必要である
- ・ 単身世帯や身寄りのない高齢者の増加を見据え、生活状況や経済状況、家族構成等に応じた多様な住まいの確保が必要

課題⑥ 認知症施策の強化と共生社会の実現

- ・ 認知症に対する理解が地域全体には十分に進んでおらず、本人や家族の孤立につながる懸念がある
- ・ 認知症のある本人や家族からは、相談先の分かりにくさや、地域とのつながり・居場所の必要性が指摘されている
- ・ 認知症の早期発見・早期対応とともに、地域で支え合う体制の強化が必要である

次期「すまいるオアシスプラン 2027」の方向性

(1) 次期計画の2040年を見据えた目指す方向性と考え方

次期「すまいるオアシスプラン 2027」では、人口減少や高齢化の進展、地域包括ケアの担い手不足といった社会環境の変化を前提に、地域包括ケアシステムの構築を目指した従来施策の拡充ではなく、地域包括ケアの「持続性の強化」を重視した施策体系への転換を図る。

具体的には…

- ・ 医療・介護ニーズの複合化に対応するため、多機関連携を強化し、高齢者一人ひとりの状態や生活状況に応じた切れ目のない支援体制の構築を図る。
- ・ 認知症のある人を含め、高齢者を「支えられる側」として捉えるのではなく、社会参加や地域活動を通じて役割や生きがいを持ち、地域を支える存在としても活躍できる地域づくりを進め、地域共生社会の実現を目指す。
- ・ 人材不足を前提としたサービス提供体制の維持に向け、職場環境の改善や介護テクノロジーの活用による生産性向上や業務効率化を推進し、限られた人材の中でも必要なサービスが継続的に提供される体制の確保を図る。

これらの考え方のもと、2040年を見据えて、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられる「地域包括ケアシステムの深化・持続」を目指す。

(2) 基本理念

高齢者が住み慣れた地域の中で、安心して生活を送れる社会づくり

(考え方)

- ・ この理念は、本市の上位計画である福井市第九次総合計画に掲げられている「高齢者が住み慣れた地域の中で、安心して生活を送れる社会をつくる」という施策目標と方向性を同じくするものであり、本市の高齢者施策及び地域包括ケアシステムの基本的な考え方として位置づけられている。
- ・ このことから、現計画に掲げてきた「高齢者が住み慣れた地域の中で、安心して生活を送れる社会づくり」という基本理念を踏襲し、次期計画においても基本理念として引き続き掲げるものとする。

次期「すまいるオアシスプラン 2027」 2040 年を見据えた将来ビジョン（目指すべき将来像）

- ・ 基本理念の実現のためには、「医療、介護、介護予防、住まい、生活支援、認知症」の各分野の取組をバランスよく推進するとともに、分野ごとの役割を明確にしながら連携して取り組むことが重要である。
- ・ このため、本計画では、それらの6つの分野ごとに将来ビジョン（目指すべき将来像）を掲げ、地域包括ケアシステムの深化・持続を進める。

ビジョン1 在宅医療の充実と在宅医療・介護連携の強化

- ・ 入退院や急変時において、多職種間で円滑な情報共有が行われ、切れ目のない在宅ケアが提供されている。
- ・ 専門多職種による連携体制が強化され、人生の最終段階まで本人の意思や希望に沿った在宅療養生活を安心して送ることができている。

ビジョン2 介護サービス提供体制の持続性強化

- ・ 多様化するニーズに応じた介護サービスが、将来にわたり持続的に提供できる体制が確保されている。
- ・ 介護人材の確保や生産性向上により、限られた介護人材でも、質の高いサービスが提供され、本人や家族が適切な支援を受けることができている。

ビジョン3 社会参加と効果的な介護予防の推進

- ・ 高齢者が一人ひとりに合った活躍の場に参加し、社会とつながりながら役割や生きがいを持って充実した高齢期を送ることができている。
- ・ 多くの高齢者が主体的に介護予防や健康づくりに取り組み、その活動が地域に広がり、健康寿命の延伸につながっている。

ビジョン4 日常生活を支える地域づくりと支援体制の充実

- ・ 日常生活上の困りごとに対し、多様な主体による生活支援が切れ目なく提供されている。
- ・ ひとり暮らしや身寄りのない高齢者を地域で見守り支える体制が構築され、すべての高齢者が安心して生活できている。

ビジョン5 高齢者の住まいの確保

- ・ 要介護状態になっても住み慣れた地域や自宅で安心して生活できる住環境が整っている。
- ・ 高齢者の状態や経済状況、家族構成などに応じた多様な住まいが選択できるよう、必要な住居が確保されている。

ビジョン6 認知症とともに生きる共生社会の実現

- ・ 幅広い世代に「新しい認知症観」が浸透し、認知症のある人が地域で安心して暮らし続けることができている。
- ・ 認知症のある人が役割や生きがい、人とのつながりを持ちながら、地域の一員としてともに生活できている。
- ・ 本人の気づきや意思が尊重され、早期の相談・対応につながるとともに、状態の変化に応じた切れ目のない支援体制が整備されている。

次期「すまいるオアシスプラン 2027」 計画体系骨子（案） <ビジョン1～3>

基本理念の実現のため、6つの分野別将来ビジョンのもと、各施策を展開していくとともに、課題整理を踏まえ、今後3年間の計画期間で、特に重点的に取り組むべき事項を重点施策として位置づける。

将来ビジョン	施策の方向	考え方	施策
ビジョン1 在宅医療の充実と 在宅医療・介護連 携の強化	1-1 適切な在宅医療・介護サー ビスの提供と多職種間の連携 の推進	高齢者が病状に応じて適切な療養や医療・ケアを 選択し、尊厳をもって生活できるよう専門多職種 間の連携体制を強化する。	① 多職種間の連携の推進【重点】（課題① 複合ニーズ・不安対応） ② 在宅医療・介護連携支援体制の充実 ③ 日常の療養における切れ目のない連携体制の構築 ④ 入退院や急変時の円滑な情報共有と連携強化 ⑤ 在宅医療・介護従事者の資質向上
	1-2 在宅療養等に関する普及 啓発	人生の最終段階の医療・ケアについて主体的に考 え、意思を伝えられるよう、人生会議（ACP）の 普及啓発を進める。	① 人生会議と在宅ケアの周知啓発
ビジョン2 介護サービス提供 体制の持続性強化	2-1 介護人材の確保と生産性 向上の推進	介護サービスに携わる人材確保・離職防止に向 けた取組や、人材不足を前提としたICTやDXに よる生産性向上や業務負担軽減を進める。	① 介護人材の確保・離職防止の推進【重点】（課題② 介護人材不足） ② 生産性向上と負担軽減によるサービス提供体制支援【重点】（課題② 介護人材不足）
	2-2 持続的な介護サービスの 基盤整備と質の確保	限られた介護人材の中でも、地域の実情に応じ て、市内全域で必要な介護サービスの質を維持す る体制を整える。	① 介護サービス基盤の整備と耐災害性の強化 ② 地域特性に応じたサービス提供体制の確保 ③ 家族介護者への支援と利用者負担の軽減 ④ 介護サービス・ケアマネジメントの質の確保及び適正化
ビジョン3 社会参加と効果的 な介護予防の推進	3-1 社会参加の拡大と通いの場 の充実	高齢者が生活の質を高め、自分らしく活躍でき るよう、仕事や地域活動、通いの場など社会と関わ り続けられる環境を整える。	① 生きがい就労・シルバー人材センターによる就労機会の拡大 ② 地域活動の参加促進と多様なつながりづくり ③ 地域の通いの場の充実と参加しやすい環境づくり【重点】（課題③ 社会参加等促進）
	3-2 介護予防と健康づくりの 推進	生活習慣病予防からフレイルの恐れがある高齢 者の自立支援まで、要介護状態にならないための 専門多職種を活用した介護予防を推進する。	① 心身機能の低下した高齢者の早期把握 ② 多職種による介護予防と健康づくりの推進【重点】（課題③ フレイル予防等促進） ③ 多様な介護予防サービスの確保 ④ かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局による健康管理の推進 ⑤ 重症化のリスクを抱えた高齢者に対する個別指導の強化

次期「すまいるオアシスプラン 2027」 計画体系骨子（案） <ビジョン4～6>

将来ビジョン	施策の方向	考え方	施策
ビジョン4 日常生活を支える <u>地域づくりと支援体制の充実</u>	4-1 <u>地域特性に応じた生活支援体制の構築</u>	地域の特性に応じて、住民や事業所、民間企業など、多様な主体で役割を分かち合いながら、無理なく続けられる生活支援体制を整える。	① 多様な生活支援サービスの確保 ② 生活支援コーディネーターの活動支援と地域資源の活用促進 ③ 住民主体の生活支援体制の構築と担い手づくり【重点】（課題④ 支え合い希薄化） ④ 高齢者の外出支援の推進
	4-2 地域で支える見守り体制の充実	ひとり暮らしや身寄りのない高齢者が安心して暮らせるよう、ICTを活用しながら地域での見守り・支え合いの体制を強化する。	① ひとり暮らし等高齢者の実態把握とICTによる見守りの推進 ② 福祉サービスの適切な提供 ③ 地域ぐるみの日常的な見守り体制の構築
	4-3 <u>安心して生活できる包括的な相談支援の推進</u>	高齢者の多様な課題に、身近な場所で切れ目なく相談・支援につながる体制を整え、安心して地域で生活できる環境づくりを進める。	① 地域包括支援センターと多機関との連携による包括的支援の推進【重点】（課題⑤ 単身世帯等への対応） ② 成年後見制度等による権利擁護の推進 ③ 高齢者虐待防止の推進
ビジョン5 高齢者の住まいの確保 【高齢者居住安定確保計画】	5-1 自宅で安心して生活ができる住環境の整備	高齢者が居住する住宅のバリアフリー化等、生活状況に応じた住環境の整備を促進する。	① 高齢者の生活に配慮した住環境の整備促進
	5-2 多様な住まいの提供	将来推計に応じた高齢者向け住宅の整備を進め、地域や医療・介護との連携を強化するとともに、低所得や身寄りのない高齢者の住まい確保を支援する。	① 高齢者向け住宅の量の確保と質の向上【重点】（課題⑤ 単身世帯等への対応） ② 高齢者向け住宅の地域連携の推進 ③ 低所得高齢者等に対する住宅セーフティネットの構築
ビジョン6 <u>認知症とともに生きる共生社会の実現</u> 【認知症施策推進計画】	6-1 <u>認知症のある人と育む新しい認知症観の普及と理解促進</u>	新しい認知症観のもと、認知症のある人を地域の一員として尊重し、ともに暮らしていけるよう、市民への普及啓発と理解の促進を図る。	① 幅広い世代への新しい認知症観の普及【重点】（課題⑥ 認知症施策の強化） ② 認知症サポーター・キャラバンメイトへの活動支援 ③ 若年性認知症のある人の社会とのつながりづくり ④ 成年後見制度の利用支援
	6-2 <u>認知症のある人が役割とつながりをもって暮らせる地域づくり</u>	認知症のある人が地域の一員として役割やつながりを持ち、自分らしく暮らし続けられるよう、共生の地域づくりを進める。	① 認知症のある人と家族の居場所づくり【重点】（課題⑥ 認知症施策の強化） ② 地域と連携した認知症バリアフリーの推進 ③ ひとり歩きによる行方不明者の早期発見・保護体制づくり
	6-3 <u>認知症の予防・早期発見・早期対応と切れ目ない支援体制の構築</u>	認知症の予防から早期発見・早期対応までを一体的に進め、認知症のある人や家族が切れ目なく支援につながる体制づくりを進める。	① 認知機能のチェックや早期相談ができる仕組みづくり ② 早期発見・早期対応に向けた連携体制の整備【重点】（課題⑥ 認知症施策の強化） ③ 医療・介護従事者の認知症対応力の向上 ④ 発症予防と進行抑制に効果的なプログラムの提供

次期「すまいるオアシスプラン 2027」 重点施策（案） <ビジョン1～3>

（重点施策の方向性と考え方）

重点施策1 多職種間の連携の推進

<ビジョン1> 施策の方向1・施策①

（選定理由）圏域ごとに顔の見える関係づくりは進んでいるものの、医療・介護ニーズの複合化や急変時等の在宅ケアの不安解消に対応していくためには、多職種が連携し課題を共有しながら支援につなげる体制の強化が重要であるため。

（方 向 性）多職種間での情報共有や役割を明確化するとともに、課題の把握から具体的な支援につなげる実効的な連携体制を構築・定着させる。

重点施策2 介護人材の確保・離職防止の推進

<ビジョン2> 施策の方向1・施策①

（選定理由）介護人材の不足が慢性化しており、サービス需要の増加に対応するためには、人材確保に加え、離職防止と定着を図る取組の強化が必要であるため。

（方 向 性）介護職員の処遇改善や職場環境の改善、キャリア支援を通じて人材の定着を促進するとともに、介護業界の魅力発信や多様な人材の活用を促進する。

重点施策3 生産性向上と負担軽減によるサービス提供体制支援

// 施策の方向1・施策②

（選定理由）人材不足の中でも安定したサービス提供を維持するためには、従来の体制に加え、人材不足を前提にした業務効率化と質の向上が必要であるため。

（方 向 性）ICT・AI 活用と DX 推進、情報基盤整備による業務効率化を進めるとともに、事業所間での事例共有・横展開を図り、生産性向上と質の確保を両立する。

重点施策4 地域の通いの場の充実と参加しやすい環境づくり

<ビジョン3> 施策の方向1・施策③

（選定理由）就労や趣味などの多様な参加ニーズが広がる一方で、社会参加が限定的な高齢者も多くなっており、身近で気軽に通える場の充実が必要であるため。

（方 向 性）地域の通いの場での専門職を活用し、介護予防活動を充実させるとともに、高齢者同士が主体的に誘い合う仕組みを構築する

重点施策5 多職種による地域特性に応じた介護予防と健康づくりの推進

// 施策の方向2・施策②

（選定理由）85 歳以上人口の急増に伴い、自立支援や重度化防止の取組強化、フレイル対策の重要性が一層高まっているため。

（方 向 性）リハビリテーション専門職や栄養士等の多職種との連携により効果的な自立支援プログラムを拡大し、フレイル予防や改善を促す取組を強化する。

次期「すまいるオアシスプラン 2027」 重点施策（案） <ビジョン4～6>

（重点施策の方向性と考え方）

重点施策 6 住民主体の生活支援体制の構築と担い手づくり

<ビジョン4> 施策の方向1・施策③

（選定理由）地域の支え合いの希薄化や担い手不足が進む中、持続可能な生活支援体制の構築が求められているため。

（方 向 性）住民主体の取組を支援するとともに、民間事業者や有償活動など多様な主体の参画を促し、地域で支え合う持続可能な仕組みを構築する。

重点施策 7 地域包括支援センターと多機関との連携による包括的支援の推進

// 施策の方向3・施策①

（選定理由）単身世帯や身寄りのない高齢者の増加により課題が複雑化・困難化する中、多機関による連携した支援が必要であるため。

（方 向 性）市による後方支援や関係機関との連携体制の充実により、地域包括支援センターの業務実態を踏まえた持続可能で質の高い相談支援体制の構築を図る。

重点施策 8 高齢者向け住宅等の量の確保と質の向上

<ビジョン5> 施策の方向2・施策①

（選定理由）単身世帯や身寄りのない高齢者の増加に伴い、生活課題や経済状況、家族構成などに応じた多様な住まいの確保が必要であるため。

（方 向 性）入居情報の提供や協力医療機関との連携により高齢者向け住宅の質を向上するとともに、老朽化が進む高齢者施設に対する支援等住宅の量を確保する。

重点施策 9 幅広い世代への新しい認知症観の普及

<ビジョン6> 施策の方向1・施策①

（選定理由）認知症に対する理解不足が、本人や家族の不安や孤立につながる懸念があり、「新しい認知症観」を地域全体に広げることが必要であるため。

（方 向 性）地域・学校・企業等と連携し、認知症サポーターを養成するとともに、幅広い世代に対して「新しい認知症観」の普及を図り、共生社会の実現を推進する。

重点施策 10 認知症のある人と家族の居場所づくり

// 施策の方向2・施策①

（選定理由）認知症のある人や家族の孤立を防ぎ、地域で安心して生活を継続するための支援が求められているため。

（方 向 性）オレンジカフェ等の居場所の充実を図るとともに、チームオレンジの活動支援など認知症のある人が役割やつながりを持てる地域づくりを推進する。

重点施策 11 早期発見・早期対応に向けた連携体制の整備

// 施策の方向3・施策②

（選定理由）認知症は早期発見・早期対応により生活の質の維持・向上が期待されることから、連携体制の強化が必要であるため。

（方 向 性）認知症ケアパスの活用など早期相談・受診につながる仕組みを整備するとともに、認知症初期集中支援チームをはじめとした多職種による連携を強化し、切れ目のない支援体制を構築する。